

# ミャンマー オンライン派遣校に決定!

この度、対日理解促進交流プログラム「JENESYS」高校生オンライン派遣プログラムへの本校の参加が決定しました。

【派遣国】ミャンマー

【参加生徒】十一名

・二年生

五組 田中さくら 西田千華

六組 小竹黄葉 宮崎遙

・一年生

六組 北出敦寛 芝田葵依

寺井巴菜 中村壮太 橋本昊征

早田朱里 本田亥節

十二月に行われる本プログラムの前に2回行われるプレプログラムのうち、1回目(10月5日(水))に行われま



【プログラムの主な内容】

- ・ミャンマーに関するクイズ
- ・在ミャンマー日本国大使館 中島優子書記官による講義
- ・質疑応答

みなさんは、ミャンマーと聞いて何を連想しますか。アウンサンスーチー? クーデター? ビルマの竖琴?

中島優子氏による講義では、ミャンマーについて幅広く、わかりやすく説明していただきました。

参加生徒による感想(一部抜粋)を紹介します。

一年六組 早田 朱里

今回で一番驚いたことは、ミャンマーの教育のことだ。まだまだ暗記型教育でしかも大学でも行われているという事は日本でも普通に生活していても知ることがなかっただろう。また、私は正直ミャンマーについてク



ーデータのイメージがあつたが、事前学習やアイスブレイクで新しいイメージを持つことができた。やはり日本にいて「E」などで一方的に得られるものだけで生活しているのだと気が付いた。また、その情報も最低限で自分が思っていたより大変なことが起こっているのだと感じ”海外と言えばアメリカ!豊か!平和!”など、自分がいかに狭く限られた範囲で物事を認識しているのか痛感した。中学生の時に比べて自由になり、沢山の事を知ったつもりでいたが、ミャンマーやウクライナ、その他の国で戦争状態にあり一概には平和とは言えない状況だと思った。ミャンマーの事前学習で大学進学率が男子より女子の方が多いと知った。その上、中島さんの話で私たちと同じくらいの年齢の子が大学進学すると聞き、深く考

えるものがあつた。色々な事を知るためには英語が必要だと中島さんがおっしゃっていた。視野を広げるために英語の勉強を大切にしていきたいと思った。

二年五組 西田 千華

ミャンマーのクイズがある、と聞いて「満点を取るぞ!」と言う気持ちで基本的な情報を調べたり友達と話したりしてミャンマーについて調べるのが楽しかった。当日のクイズでは調べていないことなどがクイズに出たりして満点は取れなかったけれど、沢山のミャンマーについての知識を楽しく理解することができたし、もっと知りたいと思った。

正直、ミャンマーについて調べたりオリエンテーションで話を聞く前は、ニュースで報道される「クーデター」「アウン・サン・スーチー」とか単語のみ



などのほぼ知らないくらい知識しかなかったが、今回の講義を受けて単語の意味は勿論、ミャンマー特有の文化、建物、人柄、など幅広い分野のミャンマーについて知ることができた。また、自分から積極的に質問をする事が出来なかったのは反省点であり、これからの課題だと思った。

一年六組 中村 壮太

中島さんにミャンマーのことを詳しく教えてもらい、日本の文化もミャンマーの文化も双方どちらにもそれぞれ違った良さがあると思いました。食文化や、衣服文化など、それぞれの文化は違っていたけれど、自分はどうしても特徴があり、伝統を大切にしている。とてもいいと思います。特に、ミャンマーの市場の量り売りは初めて聞いたのでとても驚



きました。また、ミャンマーと日本で主食は米であるという意外な共通点を知ることができました。そして、話を聞いていく中でミャンマーの文化と日本の文化で、「人間性」という点で似ていることを知り、親近感がわき、ミャンマーの国の方に対する印象が変わりました。自分のお皿より友達のお皿に盛りつけて、自分より友達を優先したり、あるものを頂いたりするときに遠慮して「すみません」と言ったりするという話を聞いて、日本人と似たような行動をしていると聞いて、とてもうれしく感じました。日本とミャンマーで、文化を比べてみると、今まではまりなんとも感じてこなかった、日本の文化のいいところも感じ、ミャンマーのいいところも感じられることができました。

一年六組 橋本 昊征

今回の講義で印象に残っている一つは、今のミャンマーの政治体制だ。日本では、選挙が当たり前に行われている。しかし、それが当たり前ではないことに

気付かされた。そして、選挙という制度は去年のミャンマーのよ



うに、簡単に奪われてしまうということに私は改めてショックを受けた。今ミャンマーでは軍が政権を握っている。軍がクーデターを起こしたとき、ミャンマーの人々は平和的にデモを行い、政権を握っている軍に対して抗議をした。私はこの行動に大きく心を動かされた。もし私がミャンマー国民だったとすれば、そのような行動には出なかつたと思うからだ。私は平和的なデモにできることには限りがあると、すぐに見切りをつけてしまうだろう。そのようなことをしても時間がかかるだけであり、暴動に出た方が手っ取り早いと思ってしまう。しかし、ミャンマーの人々

はそうしなかつた。その時は、ミャンマーの人々は平和や民主主義に対して私なんかより何倍も強い希望や意思をもっているのだと強く感じた。

そして私は、ミャンマー軍のクーデターを許してはならないと、今回のお話を聞いて感じた。それは当然ミャンマーの人々のためでもある。しかしこのクーデターに対して抗議をするという事は、我々日本の民主主義を守ることにつながるのではないかとも思う。このクーデターに抗議をすることで、私たち日本国民は日本政府に対し、「日本の民主主義をこれからも守り続けてほしい」という意思表示ができるはずだ。

これから私たちは日本人は、このクーデターを他人事だと思つてはならないし、私たちにとつても、抗議を行うことが意味のあることだと自覚しないといけないと思



# ミャンマーオンライン派遣プレプログラム 第2回目が実施されました

対日理解促進交流プログラム「JENESYS」高校生オンライン派遣プログラムの第2回プレプログラムが、十一月十一日(金)実施されました。

参加生徒による感想(一部抜粋)を紹介します。

今回のプレプログラムでは、JICAのことについてたくさんのことを教わった。まず、JICAのミャンマー支援には大きく分けて三種類あることを知った。一つ目は、「国民の生活向上の支

援」、二つ目は、「経済、社会を支える人材の能力向上や制度の整備の支援」、三つ目は、「持続的経済成長のために必要なインフラや制度の整備等の支援」である。これらに基づいて、JICAはODAという「政府開発援助」をしている。ODAにも種類があって、「多



国間援助」と「二国間援助」の二種類があり、二国間援助にも、お金を提供する「有償資金協力」、物を提供する「無償資金協力」、人を通じて技術を提供する「技術協力」がある。今回のプレプログラムでは、約十五の支援について詳しい説明をもらった。例えば、「バゴー」という地域では乾燥によって様々な問題が起きているので、「バゴー地域西部灌漑開発事業」の名のもと決壊しかけの堤防や機能しない水門を修理したり、「バゴー地域西部農業収益向上プロジェクト」の名のもと、米の品種改良の指導や、米の管理方法の指導を行っているそうだ。また、私の印象に残った事業は、交通関連の事業で主に二つある。一つ目は、「新タケタ橋建設計画」である。旧タケタ橋は、新タケタ橋に比べてすぐに渋滞しやすく、そもそも橋全体がボロボロだった。しかし、この橋がなければ交通を使う産業に大きく影響するため、新タケタ橋を建設する計画が立てられたのだ。新タケタ橋は旧タケタ橋に比べて幅が広くなっている、スムーズに渡れるようになり、何より外見が美しくなっている。二つ目は、「ヤンゴン環状鉄道改修事業」である。この事業では、ヤンゴン環状鉄道の信号や踏切の設備と更新をしている。しかし、この事業には驚くべき支援があった。それは、日本の中古自動車がミャンマーに輸入されていることだ。つまり、輸入された日本の中古自動車がこのヤンゴン環状鉄道で使われているということになる。私はとても驚いた。なぜなら、もはやこれは鉄道のリサイクルだと思ったからだ。支援の仕方にも色々種類があるのだと、この時気づいた。

本田玄節

## 【参加生徒】11名

### ・2年生

田中さくら 西田千華 小竹黄葉 宮崎遥

### ・1年生

北出敦寛 芝田葵依 寺井巴菜 中村壮太  
橋本昊征 早田朱里 本田玄節

## 【プログラムの主な内容】

- ・JICA ミャンマー事務所所長 工藤氏による講義
- ・質疑応答

第一回プレプログラムを通してミャンマーで今起こっている多くの課題を知り、今回は、それに対してどのような取り組みが行われているのか知ることができました。前回の話を聞いて、対策などがあまり行われていないのかと思っていましたが、日本がたくさん支援していることがわかりました。例えば、教育面での支援ではミャンマーで行われている暗記教育を変えるた



めに教科書を作ったりしていません。ミャンマーではさまざまなか文化が共に暮らしているので、その文化にあった教科書を作らなければなりません。これは多くの知識があるから、ミャンマーの文化を理解しているからこそできたことだと思います。実際の授業の動画で子供たちが楽しそうに授業を受けているのを見て、私もとてもうれしくなりました。

このように実際に課題を解決するための行動を起こして、人々の生活をより快適なものにし、人々を笑顔にする活動を行うことはとても素敵なことだと感じました。また、支援を通してミャンマーと日本の絆がさらに深まればいいなと思いました。

小竹黄葉

今回はミャンマーへの支援を行う日本の機関 JICA の方の話を聞き、主に JICA がどういった支援を行っているのかを知った。JICA が行っている支援は大きく分けて三つで、「技術協力」「無償資金協力」「有償資金協力」で

ある。特に私が気になったのは技術協力である。技術協力では人材派遣を行って日本が保有する技術をミャンマーに伝え、自ら発展できるように支援するのだ。この方法はとてもいいと思った。理由二つある。一つは、人と人が関係するので現在進行しているグローバル化にあっていると思っただからだ。ほかにも人が関係することでお互いの国の利益も生まれる。例えばミャンマーの人々のコミュニケーション力が向上し、JICA を通じて他国との良好な関係を築ききっかけ



にもなるのではないかと思う。日本は、人を通すことでしか知ることができないミャンマーの現状を知ることができない。二つ目は、上下関係が他二つよりも生じにくいということだ。上記の理由からも、お互いが対等な関係でいられるのがこの技術協力であると思う。私は支援をするのに上下関係は必要ないと思う。これらの理由より技術協力は良い方法だと思った。しかし、この技術協力にも問題があると思った。「現在のコロナ禍で実践できているのだろうか」ということだ。JICA の方に質問したが、現状では難しいようだ。コロナ禍が早く収まり、ミャンマーに十分支援できる日が来るよう、願ってやまない。

芝田葵依



# JENESYS 2022



## 対日理解促進交流プログラム ミャンマー高校生オンライン派遣プログラム

プレプログラム2回

10月5日、11月11日

本プログラム6回

12月8日、9日、19日～22日

### 【JENESYS2022 派遣プログラムの目的】

- ① ASEAN 諸国・東ティモールと日本の青少年の相互理解を促進し、将来の友情と協力の礎を築く。
- ② 日本の社会、歴史、文化多様性、政治及び外交政策に関する理解促進を図る。
- ③ JENESYS プログラムの参加者は、プログラムを通して得た知識や経験を、個人的な思い出で終わらせることなく、帰国後も家族・友人・地域などで伝え、日本に関する両方を発信していく。

【参加生徒】11名

- ・2年生 田中さくら 西田千華 小竹黄葉 宮崎遥
- ・1年生 北出敦寛 芝田葵依 寺井巴菜 中村壮太 橋本昊征 早田朱里 本田亥節

### 【本プログラム1, 2回目】

ミャンマー語講座やオンラインでの市内観光・ホームビジットを体験。



### 【本プログラム3, 4回目】

ミャンマーの生徒の皆さんに向けて、学校紹介や日本の文化紹介。質問もたくさん出て、会話が盛り上がりました。ミャンマーの生徒の皆さんからも、ミャンマーの文化や伝統風習、お祭りなどの紹介をしてもらいました。



### 【本プログラム5回目】

翌日の本プログラム6回目 派遣プログラム報告会の準備。



### 【本プログラム6回目】

今回の派遣プログラム報告会

ミャンマー日本国大使館書記官 中島 優子氏、JICE 国際交流部部长 塩野谷 剛氏も参加してください、指導助言をいただきました。



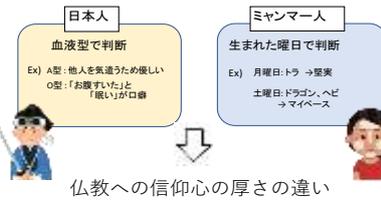
### 5つのアクションプラン

1. 全校生徒に向けた総合的な探究成果発表
2. 地元新聞社による取材
3. 学校ホームページ (SGHネットワーク通信) に掲載
4. 日高高校国際交流SNS等での情報発信
5. 生徒個人でTikTok, Instagramでの情報発信

### 水祭り

水祭りとは・・・新年を迎える祭り。

一年の汚れを洗い流す。新鮮な気持ちで新年を迎えることができる。



仏教への信仰心の厚さの違い

### 【参加生徒の声(一部抜粋)】

初めは、ミャンマーのことを全く知らず、プログラムに少し不安を持っていましたが、最終的には、ミャンマーのことを深く理解し、その上、ミャンマーのことが大好きになりました。このプログラムを企画していただいたJICEさんには本当に感謝しています。このプログラムで、ミャンマーのことを3時間くらい話すことができるくらい知識を培いました。また機会があれば、周りの人にミャンマーの魅力を伝えることをしたいと思います。このプログラムは自分にとって最高の体験になったと思います。この体験を今後の自分の人生につなげていこうと思います。(中村)

自分が成長していると感じることで、喜びを覚えるとともに、視野が広がり将来が明るく思えるくらい得たものが多く大きいと感じている。今回の経験をいろんな事に生かしていくためにも新しいことにどんどん挑戦していきたい。(早田)

今まで私はこういったプログラムに参加したことがなく、参加すること自体不安があったが、一緒に参加したクラスメイトや先生のおかげで楽しく参加することができた。また、発表時にはミャンマーの方々が興味を持って私たちの発表を聞いてくれ、質問も多くとても嬉しかった。中には日本語で話してくれた方もおり、上手で驚くともに積極的に日本に興味を持つてくれていることに今まで味わったことのない嬉しさを感じた。今回のプログラム参加は今後の私にとってとても意義のあるものになった。プログラムが進むにつれ

人生のなかで、ミャンマーに行ってみたいと強く思うし、今回のような交流を直接会ってできるようになったらいいと思います。ミャンマーの生徒さんや大使館の方はとても優しい人たちでした。こちらからの質問には快く応えてくださり、本当に楽しい時間を過ごせることができました。また、みんなで撮った記念撮影の素敵な笑顔が忘れられません。とても仲よくなれたと思います。また機会があれば参加したいと思います。(北出)

このプログラムを通して、ミャンマーの方々の優しさを心から感じる事ができました。そして、海外の文化や日常生活を体験型で楽しみ学ぶことができました。私たちも日本の文化など美演形式で発表したが、次にこのような機会があれば、ホームビジットのような形で日常生活を多くの人に知ってもらいたい。とても素晴らしい経験になった。(寺井)

